

激動の社会の先に

明るい未来を創りあげ

令和3年伊万里市議会第1回定例会（3月議会）で、深浦弘信市長が令和3年度の市政運営について所信表明を行いました。その一部を紹介いたします。

令和3年 所信表明 第1回定例会

市政運営にあたって

平成30年4月、市民の皆さまから市政運営の負託をいただき、早くも任期の最終年度を迎えます。

私は、「伊万里に新しい風を！子どもたちにさわやかな風を！」との思いを胸に、市民との対話を重視し、現場主義を貫きながら、本市の将来の発展と飛躍への確かな礎を築くため、全力を尽くしてきました。

特に、未来を担う子どもへの投資が最も大事だと考え、安全で快適に学習できる学校施設の整備をはじめ、豊かな創造力を育むプログラミング教育など、ICT教育の充実を積極的に進めてきました。また、地域の成長をけん引するIT企業の誘致活動が着実に成果を挙げ、若年層の雇用の場を創出し、先進的なデジタル技術を市内産業と融合させ、次なる発展を導く新しい地方創生の柱を築くことができました。

さらに、将来の世代に課題を残さない未来への責任を強く意識し、市民会館大ホールなどの廃止や公立保育園の民営化など、統廃合を含めた公共施設の再配置についても、将来のあるべき本市の姿を思い描いた上で苦渋の決断を行いました。果敢に実行してきました。このような市民の豊かな暮らしと経済、産業の持続的な発展の種が芽吹き、次なる成長へのステップに移ろうとした矢先に、未知のウイルスにより私たちの生活は一変し、

予想だにしない事態に直面したところであり、この苦難を克服するためには、私自身が不屈の信念を貫き、今こそ、確かなリーダーシップを発揮するときであると、改めて意を強くしたところです。

私は、まさに混迷を極める時代の真ただ中において、決して臆することなく、新たな道を切り拓く気概を持ち、過去の経験にとらわれない斬新な発想と大胆な行動力でイノベーションを起こし、地域のポテンシャルを最大限に引き出しながら、市民の夢と希望がかない、誰もが幸せを実感できる伊万里市づくりに向け、使命感を持って全力で取り組んでいく覚悟です。

新しい変化の中で

近年の日本経済は、米中間の貿易摩擦や消費税率の引き上げなどの影響により景気の後退感が漂い始めた中、突如として現れ猛威を振るった新型コロナウイルス感染症による社会経済活動の唐突かつ急激な停止から、景気の大幅な落ち込みを経験しました。

今なお、新規の感染者数が高い水準で推移するなど、予断を許さない状況が続いており、国や地方は、景気回復を目指す経済活動の後押しと感染拡大を防ぐ行動制限の両方を、同時に見極めながらの大変難しい舵取りを迫られています。

また、制限された社会活動の中で、デジタル技術の活用により、テレワークやWeb会議、オンライン授業など、コロナ禍を契機として新しい社会の仕組みが定着してきたことなどから、社会経済システムを再構築するデジタルシフトを積極的に推進しながら、コロナと共生する社会を構築していくことが求められています。

新しい時代のまちづくり

『ニューノーマル社会』と呼ばれる中で、新しい生活様式や柔軟な働き方が日常化したことにより、若い世代を中心に地方で暮らすことへの関心が高まるなど、東京圏への人口集中の動きを鈍化させる新たな潮流が生まれています。

地方分散のチャンスが到来したこの機を逸することなく、これまで取り組んできた『ひと』と『しごと』の好循環の流れをさらに強め、『まち』に活力を与えるためには、令

和3年度を地域経済のコロナ禍によるダメージからの脱却と再生の年と位置付け、市民の皆様や企業、団体など連携を図りながら、地域の特性を生かした実効性のある地方

創生の取り組みを進めていかなければなりません。

私は、まちづくりの原点は『ひとづくり』であるとの揺るぎない信念のもと、魅力的なしごとづくりやシティブロモーションの多様な展開により、暮らしや働く場の充実による若者の定着を図り、移住や定住、観光、企業立地など、今年の1月に誕生した本市の新しいキャッチコピー『いまりで、決まり!』と、あらゆる社会活動の中で選ばれるまちを目指していきます。

主要な施策の考え方

施策の取り組みにあたっては、いわゆるウイズコロナまたはアフターコロナへの対応も視野に入れ、市民との協働を基本として、国や県などと緊密に連携しながら、総合計画の将来都市像である『人がいきいきと活躍する幸せ実感のまち伊万里』の実現を目指し、次の考え方をもって施策の展開を図っていきます。

◆無限の可能性を秘める子どもの宝であり、新時代に適応した学びと地域が一体と

なった育ちの環境を充実させ、将来を見据えた人づくりに力を入れていきます。

◆住み慣れた地域を未来に向けて誇りを持って継承していくためには、地域住民が主体性を持って地域のまちづくり活動に取り組み、人と人がつながり続けるコミュニティを形成していくことが必要であることから、市民主導型のまちづくりを進めていきます。

◆人口減少が進行する中、地域の稼ぐ力を高め発展を図るためには、付加価値の高い仕事と雇用の機会を創出することが重要であることから、引き続きしごとづくりと人材の確保に力を注いでいきます。

◆コロナ禍により、観光客の誘致は大変厳しい状況となつているものの、アフターコロナを見据えて、交流人口の回復、その後の拡大を目指し、にぎわいのあるまちづくりを進めていきます。

◆市民の皆様にご幸福を実感してもらうため、暮らしの安全と安心が確保されたまちづくりを進めるとともに、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について

は、計画的かつ迅速な対応を図り、市民の命と暮らしを守る取り組みに全力を挙げていきます。

◆厳しい財政運営が続く中、創意工夫を凝らし、最少の経費で最大の効果を発揮する地方自治の原則を常に追求し、効率的で効果的な行財政運営に努めていきます。

明るく未来に向かって

令和3年度の施策の推進にあたっては、当面は新型コロナウイルス感染症の対応が中心となるものの、人口減少をはじめ、少子高齢化が顕在化する中で、私は、コロナ禍が続く激動の社会の先に明るい未来を創りあげるという強い信念のもと、積み重なった困難な課題にも勇気を持って挑戦する一年にしたいと考えています。

※次ページからは、主要な施策の概要と予算などについて、総合計画の6つのまちづくりの目標に沿って説明します。

伊万里市長
深浦 弘信

